

第2回高知県教育委員会協議会 会議録

1 開会及び閉会に関する事項

開会 平成28年11月21日(月) 18:30
閉会 19:30

2 場所

高知共済会館 3階「大ホール 桜」

3 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員	平田 健一

4 高知県教育委員会事務局の出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課課長	渡邊 浩人
〃	教育政策課チーフ	津野 哲夫
〃	教育政策課指導主事	石丸 太郎
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	坂本 寿一
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	松井 竜太
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良

5 傍聴

37名

6 内容

【開会前事務連絡】

事務局	<p>失礼いたします。開会に先立ちまして、事務局から事務連絡をさせていただきます。2点ございます。</p> <p>まず1点は、本日の資料でございますけれども、傍聴の皆様もご確認ください。1点ございます。ホッチキス止めで、「第2回高知県教育委員会協議会 次第」と記した資料でございます。</p> <p>それから、受付の時に「高知県教育委員会傍聴規則」をお渡ししております。この規則に従いまして、議事進行の妨げになりますような行動、私語、拍手等は謹んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
-----	---

【開会】

教育長	それでは、定刻がまいりましたので、ただ今から、校名に関する第2回高知県教育委員会協議会を開会させていただきます。 本日の議事録への署名人は竹島委員、よろしく申し上げます。
-----	--

【第1回協議会の議事内容確認】

教育長	それでは、議事の最初に、前回の会議の議事内容について確認をしたいと思っておりますので、事務局から説明をしてもらいたいと思っております。
事務局	<p>高等学校課再編振興担当企画監です。よろしくお願ひいたします。座って説明させていただきます。</p> <p>お手元の資料で1ページの資料1をご覧ください。前回、11月14日、第1回教育委員会協議会におきまして、各学校関係者の代表者の4名の皆さまにお出でいただきまして、ご意見をいただきました。</p> <p>その内容を説明させていただきます。</p> <p>最初に、高知南中高等学校の校友会の代表の方からご意見をいただきました。ポツでご意見それぞれ並べておりますが、4つ目のポツにございます「これから新たな統合校で学ぶのは卒業生ではなく、これからの新たな生徒達であること」というご意見、それから一つ飛ばしまして、その下にございます、「これまでの9ヵ月を費やした検討委員会での議論、検討したことを尊重し、上位となった高知国際を推薦する」というご意見でございました。</p> <p>それから次に保護者代表の方からいただきましたご意見として、一つめのポツの2行目から「新中高一貫教育校の教育目標に合うふさわしい校名を、それから公募結果からも、県民から国際グローバルという意見も多く寄せられているので、新中高一貫教育校の校名は新たな校名を希望する」というご意見。それからその次にございます県民の関心が高かったから、次と言いますか、その行の最後にございます「6人中5人が1位とし、あと1人も2位に高知国際を選んでいるので、検討委員会の順位や選定理由を尊重して決定してほしい」というご意見でございました。</p> <p>それから、その下へいきまして、高知西高等学校の代表者の方から、まず校友会の代表者からご意見をいただきました。2つ目のポツにございます「応募結果は高知西で8,111件95%と異例の圧倒的な指示があった。高知市を含む県内だけでなく、全国からも多数の応募があり、広範な年齢層から応募があった高知西の教育の充実と発展を願う多くの方が、意思表示行動を起こした価値は大きい。広く県民の意見を聞いたことに応えたことになるので、応募結果を尊重すべきだ」というご意見でございました。</p> <p>次の2ページを開けていただきまして、校友会の方の最後の3行を説明させていただきます。「7,924件は高知西だけでなく、高等学校教育や教育行政を支えてくれるサポーターであり、その思いを踏みにじらないよう県内外から圧倒的な指示のあつ</p>

<p>教育長</p> <p>各委員</p>	<p>た高知西に委ねていただきたい」と言ったご意見がございました。</p> <p>次に保護者代表の方からいただきましたご意見は、最初のポツの方にあります「新中高一貫教育校は今まで高知西高校が、スーパーグローバルハイスクールとして進めてきた教育内容、実績をもとにして、より一層レベルアップさせていくものである」というご意見。それから、最後のポツにございます「名実ともにすばらしい学校としていくために3つの会の協力と8千人のサポーターの力を使ってほしい」というご意見。</p> <p>それぞれ2つずつご紹介させていただきました。</p> <p>それから、委員さんとの質疑のやり取りがございまして、1点目が、「外部からの声、それと西とどう結びつくのか」というご質問がございましたが、「生徒への思いやりや周りのことも考える気持ちを校風として高知西は持っている」というお話がございました。</p> <p>それから、確認としまして、「報告書の理由には、高知西高校関係者の思いが盛り込まれていることでよいか」ということで、「主なポイントは集約されている」ということでございました。</p> <p>それから次に3番の今後のスケジュールにつきましては、第2回の会議の進め方としまして、本日でございまして、どういったポイントで考えていくのか議論するということ。それから、第3回目の会議の進め方としましては、校名候補に対する委員の意見をそれぞれ出したうえで、意見をまとめたいと。</p> <p>最後の4番、その他としましては、委員からの質問で「4つの校名候補以外からは選ばないのか」というご質問がございましたが、今までの検討委員会の経過を踏まえたうえで、この4つの中から一つに絞り込むことで委員が確認し、了承いただきました。</p> <p>そういった概要でございました、以上です。</p> <p>今、説明してもらいましたけれども、内容については特にご異議ございませんでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
-----------------------	--

【校名についての協議：高吾地域拠点校】

<p>教育長</p>	<p>それでは、一応前回の議事内容について確認をしていただいたということで、本日の議事の方に移らせていただきたいと思えます。</p> <p>本日は、校名についての協議ということで、まずは、高吾地域拠点校について、資料の3ページ、2-1にございまして、前回もお話もさせていただきましたけれども、「須崎総合」で両校関係者の意見も一致をしております、校名に関する検討委員会からもこの一つで校名候補があがっております。委員の皆様には、この「須崎総合」ということで、高吾地域拠点校の校名、それから書かれている選定理由について、こういった内容でよろしいでしょうか。確認をさせていただきたいと思えますけれどもいかがでしょうか。</p>
------------	--

各委員	(異議なし)
委員	<p>1点だけ、校名を検討していく段階、あるいは統合を議論する段階でも、工業という言葉に非常にこだわりがあるというようなことがありました。就職に非常に結びついているようなことがあったということなので、そういう不利益が出ないように配慮していただきたい。</p> <p>それと、総合高校という名前を付けるにあたり、総合学科というふうに誤解を招く可能性もあるので、その辺も中身をしっかりと周知する必要があるかと思います。なお、この校名に対しては、異議はありません。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。そういったご意見、ご指摘についてはこれからしっかりと対応していかねばならないと思いますが、それについて、事務局の方で何か説明事項はありますか。</p>
事務局	<p>高等学校課課長でございます。今、委員の方からご意見がありました、まずは工業ということが確実に引き継がれるようにということ、あるいは総合学科と間違われることがないようにというご意見は、校名が決定され次第、我々から各企業、あるいは大学等々に、教育内容が引き継がれるということを、できる限りPRをしていきたいというふうに考えております。</p>
教育長	<p>そういうことでよろしいでしょうか。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>それではですね、この内容については、委員の皆さんご了承ということのようでございますので、こういうことで決めさせていただいて、ただ、正式な決定はいずれにしても、次回の協議会で決定させていただきますが、一応内容としてはこれで固まったということにさせていただきますと思います。</p>

【校名についての協議：新中高一貫教育校】

教育長	<p>それでは、次に新中高一貫教育校についてでございますが、前回、校名に関する検討委員会から報告された4つの候補の中から選ぶということは、これは確認をさせていただいたということでございます。</p> <p>それでは、今後、教育委員会としてこの4つの中から一つを決定しなくてはなりません。今日は、前回の学校代表の皆様からのご意見なども踏まえまして、校名決定にあたってのポイント等になる事項について、協議をさせていただきたいと思っております。</p> <p>そのための協議事項については、5ページの資料3をご覧ください。</p> <p>私の方で、前回のご意見、それから公募でいただいたご意見、それから検討委員会の報告書の内容とか、そういったことから</p>
-----	--

	<p>すると、大きくはこの3つになるのではないかということで、整理をさせていただいたものでございますが、この3つを協議させていただくということによろしいでしょうか。</p> <p>また、これ以外に別のポイントも協議するべきではないかというようなことがありましたら、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。</p> <p>よろしいですかね。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>それでは、この3つでということ、皆様のご了解をいただいたということによろしいですかね。</p> <p>それでは、そういうふうに決定をさせていただきたいと思えます。</p> <p>それでは、この3つについて協議を進めさせていただきたいと思えます。</p> <p>この協議の進め方といたしましては、それぞれの項目について、順番に議論をしたいと思えますが、その項目について、委員の皆様それぞれに順次、ご意見を賜りたいというふうに思っております。</p> <p>なお、今回、委員の皆さまから伺うご意見には、場合によっては相反するようなご意見もあるかもしれませんが、この場では、あえて調整する必要はないものと考えております。それよりは、相反するような意見も含めまして、できるだけ自由に委員の皆さまの、それぞれのお考えを述べていただいて、またそのご意見をお互いに聞いていただくということを主眼に協議を進めさせていただきたいというふうに思えます。</p> <p>そういった協議の内容を受けまして、次回までに各委員におきまして、4つの候補から最適の校名と、その理由というものを考えていただくことにさせていただきたいと思えますが、こういうような方針で、これからの協議を進めさせていただきたいと思えますけど、そういうことによろしいでしょうか。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>それでは、そういうことにさせていただきたいと思えます。</p> <p>なお、委員の皆さまにできるだけ自由にご発言をいただくということからは、教育長としてこの会議の進行を担う立場にある私自身は、意見は控えさせていただきたいというふうに思えますので、その点についてもご了承いただきたいと思えます。</p> <p>それでは、進め方についてご了承いただいたということで、早速始めたいと思えますが、まず1点目の「どういう事項を重視して校名を考えるべきか」ということについて、ご意見をお願いしたいと思います。このことについては、前回の学校関係者の皆さまのご意見、あるいは公募でのご意見、先ほども言いましたけれども、検討委員会の報告書などからもいろいろと考える観点があるというふうに思えますけれども、そういったことも念頭においていただきながら、ご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、順番にということ、右側の委員から逆時計回り</p>

<p>委員</p>	<p>ということをお願いしたいと思います。</p> <p>どういふ事項を重視して校名を考えるべきかということですが、その前に、高等学校に限らず大学とかも含めて校名というのがどういふふうに分けられているのかということをお自分なりに考えてみますと、地域とか地名とか、それから人名が付いているところもあるかと思ひます。この検討委員会の案でいうと西、西南というのがこれに当たるのかなと思ひます。</p> <p>それから、明治とか大正とかそういう時代と言ひますか、こういったところで付けている校名。</p> <p>それから、学校の特色と言ひますか、工業や農業、大学でいうと外語大とか工科大とか工業大とか、そういった学校の特色を表すと言ひますか、そういった校名。これが国際でありますとか総合とか、こういった校名に当たるのかなと思ひます。</p> <p>それからもう一つは、建学の精神と言ひますか、私学などによくあると思ひますけども、理念とかそういったことを表している校名。この検討委員会の候補で言ひますと、高知立志館が当たるんではないかと思ひます。そして、またこの3つのミックス系と言ひますかね、合わせた校名というのでも随分あるのかなというふうに分ひます。</p> <p>こういったそれぞれの校名というのは、新設校の場合は歴史も伝統もない中でそういった今まで言ひましたようなことで決めていっているわけですが。今回の統合校という場合は少し性格が違ふわけで、それだけに非常に難しいことがあると。それぞれに両校の関係者の皆さまが主張しておられるように、そういう全くの新設校と違つた難しさがあるというふうに分ひしております。</p> <p>ただ、一つだけ私が考えるのは、伝統ということはもちろん大事ですが、やはり一番重視すべきは将来の若者、生徒と言ひますか、そういった人たちが夢を持って通う高校、そういったことにはどういふ名前がふさわしいかと。こういったことを考えて名前を決めていく。校名を決めていくということが重要なことではないかというふうに分ひしております。</p> <p>今日のところはこれぐらいで、よろしくお願ひします。</p>
<p>委員</p>	<p>応募の校名を見た場合、高知県の歴史にゆかりのある校名や高知ならではの校名、あと校章だけでも受け継いで欲しいという思ひ。あと県外の話になりますと鳴門市の高校が統合するときに、「鳴門渦潮」になつたから「高知黒潮」はどうだろうかという意見。あと新中高一貫教育校として、両校の統合を前向きに受け入れるためにやはり、市内一、県内一の統合校として「第一高校」が相応しいではないかという意見。やはり、私も読んでいて、気持ちがお本当に伝わってくる校名が数多くありました。</p> <p>私は両校の統合という意味と、やはり新中高一貫教育校が一番何を狙っている学校なのかということをお第一に考えたいと思ひています。</p>
<p>委員</p>	<p>非常に難しくていろいろなことを考えながら、メモを蓄えていて、もう今メモが飽和して、自分の中で整理できていないのでもう考えついたことを全部お話をさせていただきます。</p>

まず、今回統合ということがスタートした背景は、一つは少子化によって学校規模が小さくなり過ぎると高校が持つべき活気が失われてしまう。これを回避したいということは、一つのきっかけではあったけれども、それで単に数あわせの統合をしていくのでは駄目だと。もっと意欲的に高知が伸びていくための新しい教育をしなければいけないんだ。そのために、新しい教育の拠点になるようなものをつくりたい。そこでいう新しい教育というのが、社会が今非常に変革していく中でグローバル化に対応できる人材をつくる、グローバル教育である。そういうことで統合の話が進んでいったと思っています。

このグローバル化、あるいはグローバル教育は、これは中高のみならず、私ども大学を含めて教育が今変わっていかねばならないっていう差し迫った課題を持っていて、それは今変わらなければならないと同時に、これからも多分変わり続けなければならないぐらいに私は捉えています。

それで、この新しい中高一貫教育校というのは、まだ我々は十分によく分からない部分もあるグローバル教育の先進的な試みの学校なんだろうというふうに思っています。

それで、3点ぐらい大事なことがあるかなと思いました。

まず第1点は、前回、南中高の皆さん、それから西高の皆さんのご意見をしっかり伺いました。その学校あるいは校名への愛着というのが非常に強いというのをまず第一に考えなければいけないと。それで、もちろん自分の出身校の名前が変わるといことは、大変寂しいと思います。あるいはこれまで高知県では中山間を中心にたくさんの方が閉校になりました。そうすると出身校がなくなるというのは、もっと確かに寂しいことである。その気持ちには配慮しなければいけない。

それで、今回、南中高と西高を統合しようという意味は、どちらもなくさないんだと、どちらも続けるんだという、その思いで統合というふうに考えたんです。それは南中高の方にも配慮するし、西高に対しても配慮する。どちらに対しても配慮していくんだと。それで新しい統合校に新しい学校名をつけるんだと。ただもちろん、これからできる新しい学校名がやっぱり西高がいいんだという案もあるかもしれないんです。それを排除するものではないんですが、あくまでも両校に配慮して、新しい学校名をつくるという前提だと考えています。もちろん、どちらの学校も続いていくので、南中高、西高のそれぞれの伝統、それから校風、よいところをそれぞれ発展させていくんだと。だから、出身校の名前が変わるとい寂しさと裏腹に、今度逆に新しい学校として自分の母校が飛躍して発展していくっていう期待を持ってもらえるような学校名であるべきだろうと考えています。

とにかく第1点は、両校に対して校名への愛着、学校への愛着に対してどう配慮するかというのが第1点です。だから、どうしましょうというところは、まだ私の中には具体的には言えません。

2番目に考えたことなんですけれど、新しい学校名にするというときに、仮に新しい学校名が西高でなかった、西高でない選択をした場合に、大変たくさんの方の応募があった西高ではない校名となり、西高の立場からすると校名が変わってしまったと

なります。我々は新しい学校にどういう名前を付けるかという立場なんですけれども、確かに西高の皆さんからすれば、校名を変えられたという捉え方になると思います。そのときに、西高の皆さんがどんな不安を持っているか。どんな心配をしているか。現実的にどういうデメリットがあるかということを考える必要があるのかなど。これは、高知西あるいは西っていう選択肢を書かれた応募の中で、どんなことが言われていたかということをつくつか見たときに、例えば校名を変えるから余計な出費がかさむというようなこともあるし、それからよい校風が失われるんじゃないか。それから現場が混乱するんじゃないか、名前を変えることで、知名度がなくなるので、それは進学に不利益だというような心配が書かれていました。

それで、それぞれもちろん県としては新しいいい学校をつくりたいわけですから、かと言って出費をどんどん増やせばいいということには、ならないけれども、予算の都合で学校名を決めるというのは全く違うと思います。

それから、よい校風とかを保つというときに、校名と校風の関係がなかなかちょっと自分の中で整理ができなくて、例えば校名に憧れて、あの西高に行きたいと思う子どもたちが集まってきてつくる校風だから、今の校風があるのか。いや、それもあるかもしれないけれども、学校が持っている校風というのは、もっといろんな要素があるんじゃないかなというようなことも考えます。

それから、現場が混乱するのではないかというのは、全くそのとおりで、もちろんリスクはゼロではなくて、いろんな課題を想定して対応していかななくてはいけない。これも間違いはない。

最も一番気になったのは、知名度がなくなってしまう。進学に不利益になってしまうのではないかという話書かれていて、もしそれが事実だとすると、これは本当に子どもたち自身に直接かかわることなので、大きな配慮が必要だと思いました。

先ほど、実は須崎のときにも申し上げたのは、総合高校という名前にしたから普通科じゃないと思われたり、あるいは工業という名前がなくなったから就職に不利になったりということとは絶対あってはいけないと。それと同じ意味で、高知西という名前がないと進学できないとすると、それは大変不利益になる。そこは少し考えなきゃいけないのかなど。どう考えたらいいかわかりませんが、またこれも事務局の方からの、もしコメントがいただければありがたいと思います。

2点目はですから、学校の名前が変わる、西高の立場でいうと学校の名前が変わることに対する心配とか不安に対して、どう対応できるのかなということなんです。

3番目は、今回の学校の頭はグローバル教育である。グローバル教育というのは実は非常に分かりにくいものでもあるんですね。柱ではあるけど、少なくともグローバル教育は英語力を重視するという教育の行き先ではないんです。英語でコミュニケーションする能力はグローバル教育に必要なんだけど、それは目的ではない。これはもうインターネットとかで調べると、グローバル教育とはどういうものかというのが書いてあって、世界の現実に対して、これは非常に世界でいろんな問題が起こっている。その世界の現実に対して、すべての人々の眼と心を開

かせて、すべての人のためにより大きな正義、平等、人権が必要であることへの気づきを促すような教育である。それは、開発教育、人権教育、持続可能な社会のための教育、平和教育、多文化の教育・異文化理解の教育、そういうものを広く包括するようなものですが、ますます分からないというイメージもあるんです。

それで、そのグローバル教育の非常に実践的な一つの形が、今回の国際バカロレアなんですね。国際バカロレアは、以前私も全く素人でしたけど、東京学芸大学の実際の国際バカロレアの授業を見て、本当に圧倒されました。すばらしい授業をされていて、生徒もものすごく伸びているのが、見たら分かります。

その中身は、今回パンフレットにありますけれども、10の学習者像というのがあります。一つのそのグローバル教育の実践的なモデルがこの10の学習者像、これを重視するような学校なんだと。それは、英語を得意として、あるいは英語を重視して教育していく、その延長に発展で出てくるものとはどうも違うなという気がするんです。

英語科のこれまでの伝統はすごく大事だし、そればかりしたいんだけど、でも、それを発展させていくのではなくて、国際バカロレアっていう視点でこれまでにないような学校の勉強の仕方、そういう姿をつくろう。そこには英語も必要ですよという。ちょっと立場が全く変わるわけです。

国際バカロレアはIBコースだけの話ではなくて、この学校そのものがその10の学習者像に相当するような新しい教育の仕方をする。そういうところをつくっていくっていうのが、今回の中高一貫教育校の特徴だと思います。

こういう国際バカロレア、いや、そんな突拍子もないことばかりやってというわけではなくて、もうすぐ出てくる次の学習指導要領では、まさに主体的な学び、アクティブ・ラーニングというのが謳われていて、それは将来的にはこういう10の学習者像につながっていくような教育に日本は変わっていきこうとしている。その何かこう先陣を切ってやるんだというようなことが3点目です。

この3つぐらいが一番、一番というか、重要な考え方かなと思っています。だからどうすればいいかっていうところは、まだ私はよく分かりません。

ですので、もう1回整理すると、まず1番は、学校とか校名に対するたくさんの卒業生、それから校友会の皆さんの愛着、その名前が変わるとか学校がなくなることに対する寂しさ、そういうものにどう配慮するか。どちらの学校にもちゃんと配慮をしたい。

それと2番目は、仮に学校名が変わるといった状況になったときに、どんな不安を皆さんが感じられて、それがどれぐらい妥当な、あるいはほんとに心配しなければいけないもので、どんな対策をし得るのかということ。

3番目は、この新しい学校というのは、これまでにないグローバル教育っていう何か新しい姿を見せるための、そういうところなんだということが重要なかなと思います。

教育長	<p>ありがとうございました。ご発言の中で、事務局にちょっと考えを聞いてみたいということが一つございました。これは、仮にその西高という名前が変わった場合に、知名度が失われるのではないというようなご心配があるということについて、それはどうなんだろうかというようなことについての事務局としての考えをちょっと聞きたいという、そういうことでよろしいですか。</p>
委員	<p>特に、その進学に対して非常に不利になるという心配をされている方に対して、実際どうなのかと。</p>
教育長	<p>進学についてですね。分かりました。それについては、事務局、コメントできますか。</p>
事務局	<p>今、委員の方からご指摘のあった、特に校名が変わったことによって進学に不利益になる、どの程度不利益になるのかというご質問でありますけれども、我々は具体的なデータを持っておるといわけではございません。しかしながら、名前が仮に変わったといたしましても、教育内容が受け継がれ、教育内容を充実した学校であるということについては、県教育委員会全体として取り組んでいくということについては、先ほどの高吾地域の拠点校の考え方と全く同じでございますので、そういった不安に関しては、我々の方でできる限りの対応・対策をとっていくということでございます。</p>
教育長	<p>そういうことでよろしいですか。</p>
委員	<p>もう少し具体、例えばその学校名が変わると、受験で何かこう大学側が認識してもらえないとかってというのが実際どれぐらいあり得るのか、何かもし分かればお願いします。</p>
事務局	<p>そういったことの具体的なデータがあるということではございませんけれども、学校名が変わっても教育内容を受け継いだ学校であるということについては、各大学あるいは会社等に我々の方で説明をしていくということで、今までの学校におきましてもそういったことについては取り組んでおるとい状況です。</p>
委員	<p>推薦とかそういうのはどのようになりますか。</p>
事務局	<p>例えば大学の推薦がどのようになるのかということでございますでしょうか。</p>
委員	<p>そうです。</p>
事務局	<p>例えば私立大学の推薦入試がどうなるかというようなことについては、学校名が変わりましても、こういった教育内容でこの学校が受け継いでおるといことについては、それぞれの大学の方に我々の方から校名をお知らせするというので、そこは引き継いでいただけるような形で、我々の方からお願いをし</p>

	<p>ていくということになります。あくまで、それは各私立大学等々の判断になりますので、県教育委員会の方で決定をするということではできませんけれども、対応はしていくということでございます。</p>
教育長	<p>そういうことでよろしいでしょうか。 それでは、引き続きお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>そうしましたら、私は、どういう事項を重視してというお話をいただきましたので、事項ということで本日は中身にはあまり触れませんが、私は大きい3点から校名について考えたいというふうに思っております。</p> <p>その1点目でございますけれど、新しい中高一貫教育校の目指す教育内容や特色。2点目でございますけれど、校名に関する検討委員会の校名候補に関する報告書の内容。3点目でございますけれど、公募に関する意見も含まれました、先日の第1回高知県教育委員会協議会での学校関係者、校友会、学校代表者のPTA関係でございますでしょうか、ご意見などを総合的に考えて、ふさわしい校名を判断したいというふうに考えております。</p> <p>いずれにしましても、在校生や入学する生徒たちにとって、自信や誇りにつながる校名とは何かという視点で判断していきたいというふうに思っております。以上でございます。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。それでは、委員お願いします。</p>
委員	<p>私は、まず前回の協議会において、両校のご意見を伺わせていただきまして、やはり今一番学校にかかわっている皆様のご意見ですので、これは参考にさせていただきたいと思っております。そのうえで、これからの教育、これからの子どもたちにとって、どういった校名がいいのかという、そういった視点を加えて考えていきたいと思っております。これからの教育というのは、先ほど委員からのお話でもありましたけれども、この新校というのはグローバルというのが一つの柱になっている、それを目指していると。</p> <p>グローバルな視点というのは何なのかというと、端的に言えば、他者への多様性を認め、他者を尊重するということですので、何も英語をすとかそういったことではない。根本にあるのは、多様性を認め、他者を尊重するということですので、そういったこれからの教育を受けるこれからの子どもたちにとってどういった名前がいいのか、こういった視点で考えていきたいと思っております。まだ全然具体的にはそれが何なのかというのは、結論はもちろん出ておりませんが、以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。1番の「どういう事項を重視して、校名を考えるべきか」ということについて、それぞれご意見をいただいたところでございます。</p> <p>最初に申しましたように、この場でどう考えるべきかということをお話として統一をさせていただくということは考えておりませんので、今、本当に様々なご意見をいただきまし</p>

	<p>たので、ほかの委員の皆さんのご意見をまた受け止めていただ いて、今後の最終的に校名を決定する際の材料というか、そう いったことにしていただいたらというふうに思っております。 それでは、2番目の項目に移りたいと思います。</p> <p>こちらの方は比較的、シンプルな話ですので、順番にお願い したいと思えますけれども、今度は逆の順番でお願いしてよろ しいでしょうか。お願いします。</p> <p>委員</p> <p>2番目の項目の「校名に関する検討委員会の優先順位をどう 受け止めるのか」という点ですけれども、まず前提として、こ ういった校名に絞った委員会を立ち上げて8回外部の方が話し 合いをされて、公募結果を受けて3回会議を開催したうえで、 いただいた報告書の内容ということになっていきますので、これ については、十分に尊重をしたいと私は思っています。</p> <p>ただですね、これ、次の3番の「公募の数をどう受け止める のか」ということにも同じようなことが言えるのかなと思いま すけれども、具体的な数というものは、これをどのように切り 取るかによって評価が随分変わってくると思います。もう少し 具体的に言うと、母数をどのように取って、母数はいくらと考 えてその実数としてその数があるのかというところで、その母 数をどのように取るのかによって、随分評価は違ってくるかな と思います。</p> <p>前回の協議会でも、西の皆さんは公募の数とかいうことにつ いて90%というような割合が出されていましたが、南の方のご 意見からすれば、校名という数で考えると6割程度が別の新し い校名候補の数を応募しているというような形で、その割合っ ていうことになると随分評価は変わってくると思いますので、 優先順位を付けましたけど、その具体的な、ポイントといっ ていいのか、点数といっぴいいのか分かりませんが、そう いったところで優先順位が付けられたかと思うんですが、その 具体的な数字について、私自身はその評価っていうのが大変難 しいので、そこはあまり重視しないっていったらおかしいん ですけれども、考えないでおきたいなと思っています。</p> <p>教育長</p> <p>ありがとうございました。次、委員にお願いしたいと思いま すが、私の方もご報告するのが漏れていました。</p> <p>この優先順位をどう受け止めるかということについては、検 討委員会の中で委員の一人から、校名候補に仮に優先順位を 付けた場合、その重さを教育委員会はきちんと受け止めてほし いということで、ご質問といいますか、ご意見がございまして、 その際、私の方からは、複数の校名候補が優先順位を付けて報 告されたと、仮にそうした場合には、その優先順位を尊重する ことは当然します。ただし、必ずしも優先順位の高いもので決 まるわけではないと。複数の候補が出てくる以上は、必ずしも 優先順位の高いもので決まるというわけではないと思いますと いうような趣旨でお答えをさせていただいているということ でございます。</p> <p>その点をご報告させていただいて、次、お願いしたいと思 います。</p>
--	--

委員	<p>このどう受け止めるかという件につきましても、私は8回検討委員会が持たれて、公募の結果を受けてから3回の検討委員会が持たれていると思います。その中で、私も議事録しか見ておりませんが、大変積み上げられた結果が校名に関する報告書だと思っております。優先順位については、私は重く受け止めたいというふうに考えております。</p>
教育長	<p>それでは、委員お願いします。</p>
委員	<p>私は教育委員会において、随時この検討委員会の進捗状況を伺ってきました。その中で、非常に異なったいろいろな立場の委員の皆さんが非常に丁寧に慎重に、まず、その決定方法についてももしっかり議論をして、検討していただいた結果だというふうに感じます。</p> <p>それから、公募の後に関しても、公募の結果をオープンな場所でちゃんと公平に中立によく分析していただいていると思っていますので、公募あるいは順位ともに尊重するべきものだというふうに考えています。</p>
委員	<p>今回やはり、郡部の小規模校の統合とは違って、大変規模の大きな統合であるために、有識者の方たちが8回にわたり検討会を開いて最終的につけられた優先順位ですので、私も参考にしたいと思っております。</p>
委員	<p>皆さん言われましたように、検討委員会の議論というのは8回やられてですね、これはもう本当にその議論というのは尊重すべきことだというふうには思いますけれども、私は先ほど議論されましたように、いろんな意見を改めてこの教育委員会協議会の場で協議しておるわけですから、私自身は重要な参考とさせていただきますけれども、予断を排して議論をしていきたいというふうに考えております。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。基本的には尊重されるということですが、ただ、そのニュアンスは皆さんそれぞれあったかなというふうに思いました。</p> <p>それでは、引き続いて、「公募の数をどう受け止めるか」ということについて、既にもういろいろとご意見も関連して出ておりますけれども、改めて公募の数、具体的に言いますと、高知西ないし西という校名での提案が公募では全体の95%というような、割合でいうと非常に多い数であったというようなことなんですけれども、そういうことをどう受け止めるかということについて、ご意見を伺いたいと思います。それでは、もとに戻っていただいて、委員、お願いします。</p>
委員	<p>これも大変難しい問題だと思いますけれども、大変なご苦労されて運動されたということに対しては、本当に頭が下がりますし、敬意を表するところであります。</p> <p>南中高の方も統合反対という署名を多く集められたというふうなこともありますし、両校の思いということは、我々も本当に肝に銘じるべきだし、そういう検討をしていかななくてはなら</p>

	<p>ないというふうに思います。ただ、この原則というのは、「応募多数が選ばれるとは限らない」という当初の公募のときの原則といいますか、こういったこともしっかり考えていかねばならないというふうに思います。</p> <p>私の思いとしては、それぞれの両校ともに関係者の皆様が大変なパワーを発揮されて、活動されてきたわけです。そういった意味では、そのパワーというものをぜひとも統合校に活かして活動されるということを本当にお願ひしたいというふうに思っております。</p>
委員	<p>西高の関係者の皆様のおっしゃる、やはり数の重さ、大変さは分かります。私は最初に申し上げたように、県民から応募があったこの145の校名公募の内容を重視して判断したいと思っております。</p>
委員	<p>この数が非常に気になったところですが、募集要項で「応募多数の名称が選ばれるとは限りません」ということが謳ってあったわけです。それにもかかわらず、でもやはり西高の皆さんが一生懸命こう団結して、組織力を発揮してこれだけの票数といいますか、応募を集めた。そのことについては、結果的に非常に重みを感じてしまっているところもあります。</p> <p>一方で、例えば1件しか応募がなかったのが、1票ずつしかないのが93点あります。例えば高知新聞は複数の応募があったもののしか記事にしていませんけれども、じゃあ1件しか応募がなかったのは、1票しか応募がなかったのは何かあまりふさわしくない名前かということと全然そうではないと、今回全部読み直してみてもすごく感じました。</p> <p>例えば1通だけの提案で93件のうち、これは分からないなあと思うのは9件ぐらいはありました。それでも、84件は批評を読むと、ああなるほどなあ、よく考えていただいているなというものばかりだったんです。</p> <p>なので、そもそも複数あるから、それがすばらしいということでもどうもないと。それぞれにちゃんと理由を一生懸命考えて、それは要は、広く県民の皆さんが新しい学校に希望とか期待とかを抱いていただいたんだというふうに受け止めています。</p> <p>ですので、必ずしもこの公募の数が多かったことに対しては、学校名を決めるときに直接の参考にはするべきではないと思っています。ただ、そこまでして、学校名を変えたくないという西高の皆さんのその強い思いは、それはそれとして受け止めたいと思います。</p>
委員	<p>私は、この公募結果は尊重して考えないといけないというふうには考えております。募集にあたって、「応募多数で決めるということではない」ということを、逆に言えば、多いから校名にするとの判断ではなく、応募された声も大事にしながら、新しい中高一貫教育校にふさわしい校名は何かという視点で考えていきたいというふうに思っております。</p>

委員	私は先ほど少しお話をしましたけれども、この数そのものの評価の仕方というのはいろいろありますので、数そのものということではあまり重視する考え方は持っていません。ただ、やはりその西という校名を推した方のその理由というのがあります。これはやはり重視をして考えたいと思っています。
教育長	それぞれご意見をいただきました。本当に委員の皆さん、深く考えていただいたうえのご意見というふうに、私としても受け止めをさせていただいたところでございます。 先ほど最初に申しましたように、この場で意見を取りまとめということは考えておりませんが、今それぞれの3つの項目についてご意見があったわけですけれども、例えばそのことについてもう少し深く聞いてみたいとか、あるいはその論点は私はどうかというような、少し意見交換がもしできるのであればご意見を出していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。
各委員	(特になし)
教育長	いいですか。それぞれ今言っていたこととお聞きいただいたということですのでよろしいでしょうか。 それでは、もう特段のご意見、ご質問等もないようでございますので、この点についての協議は以上とさせていただきたいと思っております。 それでは、それぞれポイントとなると考えられることについて意見を言っていただきました。まだ委員の皆さんの中では、だからどれにということの考えはまだ決まってない委員の方が多のかなというふうにお伺いいたしましたけれども、今度 24日に予定をしておりますが、その 24日に今日の皆さんのご意見を踏まえたうえで、ではどの校名が一番ふさわしいかということについて、委員の皆さんから理由等含めてご発言いただきたいと思っております。そのうえで最終的に、当然異なった意見もあると思っておりますので、この場で協議をしながら、最終的に一本に絞っていきたいということで考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。 それでは、ほかに何か関連しての話しておくべきようなことはございませんでしょうか。 ないようでしたら、本日の協議は以上で終了をさせていただきたいと思っております。次回につきましては、今申しましたような形で校名の決定をさせていただきたいというふうに思います。

【閉会】

教育長	事務局から連絡事項があればお願いします。
事務局	先ほどお話ありましたように、次回は 11 月 24 日木曜日、時間は同じく 18 時 30 分から高知共済会館を予定しております。以上です。

教育長	<p>そういうことで、24日の共済会館でということでございますので、時間は今日と同じ時間ということでございますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>以上で終わりたいと思ひます。</p>
-----	---